のカブリダニ類を利用した防 っています。 除体系が普及しつつあります 一類の発生が大きな問題とな 本圃(ぽ)期では天敵農薬 イチゴの生産現場ではハダ

イチゴのハダニ類密度抑制

土着天敵に影響薄い 化学農薬の施用有効



防除体系を検討しました。 が少ない化学農薬を使用した ハダニ類に対する土着天敵の効果(2019年) 5 -ハダニ類 土着天敵に影響が ハダニ類雌成虫寄生数(頭/葉) 4 3 2 1 0 5 --〇--土着天敵類 少ない防除体系 0.5 土着天敵数(頭/葉) 0 天敵除去 4 3 2 1 (土着天敵に影響が ある薬剤を使用) 0.5 0 0 9月 7月 17 8月 7 14 調査日(月 20 ′日) 18日 28 24 31 4

はが、 す。 いようにする必要がありま 生を抑え、本圃に持ち込まな そこで、野外に広く生息し 育苗期からハダニ類の発 防除効果を高めるために

ているハダニ類を捕食するハ 少なく、ハダニ類の密度を抑 防除では、土着天敵の発生が えることができませんでした 影響がある化学農薬を用いた 護を目的として土着天敵に影 (図下段)が、土着天敵の保 その結果、土着天敵に強い

が、後追いするように発生し た土着天敵の捕食で、殺ダニ た防除を行うと、一時的にハ ダニ類の密度は上昇します 響が少ない化学農薬を使用し 剤を散布しなく

密度が抑制され

てもハダニ類の

ました(図

ダニアザミウマ、ハダニタマ

用するため、土着天敵に影響 バエなどの土着天敵を有効利

任研究員 病害虫研究室主 (長崎県農林

ました。 段)。 では天敵に影響 剤などを使用し が少ない農薬と —環境研究部門 技術開発センタ 粒水和剤、BT フェニックス顆 ト顆粒水和剤、 粒水和剤、コル して、チェス顆 なお、本試験